

もんし 聞思

発行所 光山寺
〒758-0063
茨城県大宇山4553
TEL (0838) 22-1370
https://光山寺.net

わが涙 我が手でふけぬ
悲しみの
涙は弥陀の 回向のなみだ
(田畑明)

参り日程まる

令和五年(二〇二三) 四月三日(泊二日)

五月九日(泊二日)

二〇二二(令和四年)にお迎えいたします親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要は、「親鸞聖人の説き示してくださった浄土真宗の教えに出遇うことがなければ、今の私はあり得なかつた」という聖人への感謝と、その教えに出遇えたことの喜びを込めて、聖人のご誕生を祝い、『立教開宗』に感謝する「法要」です。萩組では左記の日程で団体参拝の予定です。皆さまぜひ、お誘いあわせのうえ、ご参拝ください。団体参拝の詳細は後日ご案内致します。

親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要「趣意書」

来る二〇二三(令和五年)に宗祖親鸞聖人のご誕生八五〇年を、また、その翌年には立教開宗八〇〇年をお迎えすることになります。つきましては、私たちの宗門は二〇二三(令和五年)にその慶讃法要をお勤めいたします。

ものごとを自己中心的にしか考えられない私たちがこの世を生きることは苦悩そのものです。その苦悩を超えて生きていく道を教えてくださるのが仏法です。阿弥陀仏は私たちに「どんなに孤独で苦しく悲しくとも、私はあなた方一人ひとりを、そのままに受けとめて、決して見放さない」との救いのメッセージを「南無阿弥陀仏」という名前に込めて、よび続けておられます。そのメッセージをそのままに領き受けとめることが、私たちに届けられた真実信心となり、どのような状況におかれようとも揺らぐことのない尊い安心を頂くことになるのです。それこそが、さまざま苦悩にも向きあつて生きることのできる依りどころとなりましょう。そういう阿弥陀仏から頂いている御恩への感謝の言葉がお念仏であり、その救いの在り方を、念仏者の生き方として私たちにわかりやすく、しかも体系立てて説き示してくださったということが、浄土真宗にとって親鸞聖人による「立教開宗」の意義であります。



遙か二五〇〇年前、釈尊は、「諸行無常」と「縁起」という、この世界と人間のありのままの真実を見抜かれました。さらにそのような在り方のなかには、変化しない実体的な自我など存在しないにもかかわらず、人びとは自ら仮想した自我に執われ、限らない欲望に基づいて、自らに苦しみをも、そして世界にさまざまな争いを引き起こしていることを明らかにされました。これは、現代にもそのままに通じる現実です。

およそ八〇〇年前、親鸞聖人は、自己の在り方を深く省みて、私たち人間とは自己中心的な思い、煩惱からいかにしても抜け出ることのできない存在であると気づかれました。しかし、そういう煩惱に突き動かされる私たち誰にも、誰ひとり取り残すことなく尊い安心を与えようとはたらき続けている阿弥陀仏の願いに出遇われたのでした。そのことを身を以て私たちの生き方として示してくださったのが親鸞聖人です。その親鸞聖人の説き示してくださった浄土真宗の教えに出遇うことがなければ、今の私はあり得なかつたという聖人への感謝と、その教えに出遇えたことの喜びを込めて、聖人のご誕生を祝い、「立教開宗」に感謝する慶讃法要をお勤めするのです。

さて、現代世界は、社会・国家のレベルでは自国の経済や文化を優先する排他的で閉鎖的な在り方が優勢となり、それにより国際的にさまざまな対立や紛争が起つています。また個人レベルでは、自己努力と自己責任という名目のもとに、共に生きるという価値観が薄らぎ、孤独・孤立が深刻な問題となつていきます。こうした人類の破滅をももたらすような閉塞した現代世界の方向性を、互いに響き合つて生きていける方向へと転換し逆転させていくことは、世界のすべての宗教が果たすべき役割です。しかしながら、日本のみならず世界各地では硬直した宗教からの離反現象が広がりつつあり、宗教はその役割を十分に果たせているとはいえません。

このような状況のなか、今こそ、「自他共に心豊かに生きる」ことのできる社会の実現」を理念とし、仏道の基本を踏まえて人びとと共に歩む私たち念仏者の果たすべき使命は、かけがえのない、大変に重いものです。 今回の慶讃法要に向けて、「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」との親鸞聖人のお言葉を胸に、地道にその役割を果たすべく、精一杯精進してまいります。 浄土真宗本願寺派龍谷山 本願寺

光山寺行事案内

令和四年の光山寺前期行事予定の一覧です。万障繰り合わせてご参加ください。

★萩組・光山寺法要関連

- 一月 八日(土曜) 午後一時 最勝講(玉江地区)
- 二月 六日(日曜) 午後三時 門徒推進連絡協議会(三千坊)
- 三月未定日(日曜) 午後七時 萩組連続研修(光山寺)
- 三月 九日(水曜) 午後七時 萩組総代研修会(真行寺)
- 五月一日・二日(日・月曜) 春季永代経法要(桑羽隆慈師)
- 六月八日・一〇日(水・金曜) 山口別院永代経法要

※八日萩組参拝日

★子供会(日曜学校) 関連

現在中断中 再開未定、五月以降を予定

★総代会・仏教壮年会 関連

- 二月 日(土曜) 午後一時半 山口教区仏教壮年大会(別院)
- 三月未定日(曜) 午後二時 光山寺総代会役員会
- 三月一三日(日曜) 午後七時 光山寺仏教壮年会役員会
- 五月 下旬(日曜) 午後七時 光山寺仏教壮年会総会

★仏教婦人会 関連

- 二月下旬・四月中旬 光山寺仏教婦人会常任委員会・全役員会
- 五月一五日(日曜) 午前九時半 光山寺初参式

★親鸞聖人讃仰会(登録制・要年会費二千元)

- 四月一八日(月曜、午後八時)、六月二〇日(月曜)
- 以降、隔月原則月曜日午後八時庫裡にて開催。
- 十月まで四回開催。

★お経の練習会(旧、正信偈唱和会、一般参加可・無料)

- 五月一四日(土曜) 午後八時 光山寺本堂
- 六月一日(土曜) 午後八時 光山寺本堂
- 七月 九日(土曜) 午後八時 光山寺本堂

★雅楽練習会(日曜午後七時半。不定期開催)

- 一月二三日(日)・三月二七日(日)

★ヨガ教室(ヨガ体験あり(有料) お問い合わせください)

- 月三回土曜日午後四時四十分より開催。

※コーラスの日程についてはお問い合わせください。

山口別院定例法座・毎月五日午後一時半(一月は十時半)

萩こころの電話(三分間法話) ㉞25-7710

西本願寺の時間(KR Yラジオ) 毎週日曜日午前六時から六時十分

《受章されました》

令和三年度春の叙勲にて、ご門徒の奥富輝之さん(元萩市消防団分团长)が瑞宝単光章を、秋の叙勲にて梅田治彦さん(防衛功労元三等陸佐)が瑞宝双光章を受章されました。それぞれ、今日までの貢献をたたえ、謹んでお慶び申し上げます。

《仏教壮年会 グラウンドゴルフ大会 開催》

仏教壮年会(会長、尾方忠久)では体育部(部長、西本一夫)行事の一環として、十月二十四日に白水小学校グラウンドにてグラウンドゴルフ大会を開催しました。参加者は二十四名で、開催後には久しぶりに庫裡にて感染対策の元、懇親会を開催しました。

《仏教壮年会 研修会・忘年会》

仏教壮年会文化部(部長、西山栄伸)では、研修会・忘年会が十二月十八日(土)午後六時より光山寺にて開催されました。

今回は防災を中心として萩市の地域防災マネージャー・防災士の福井俊寛さんより、萩市近郊の防災についてアドバイスいただいた。当日は寒さが厳しい中を三十五名の参加者は熱心に聞き入った。特に、水害については玉江地区は殆ど非難真所がない旨が指摘された。終了後は庫裡に懇親会が開催されたが、コロナ対策の関係で今年はカラオケはなく、絵合わせビンゴゲームを開催して盛り上がりを見せた。

《募金箱報告》

WWFJ(世界自然保護基金日本委員会)の募金箱(本堂焼香卓の横)に集まった募金、七一二二円を昨年十二月三十日に送金致しました。大変に有り難うございました。



■親鸞聖人鑽仰会会員募集!

親鸞聖人のみ教えを鑽仰し、同朋としての親睦を深める事を目的とした「親鸞聖人鑽仰会」を今年も四月十八日よりスタートしますので、新規会員を募集いたします。ご門徒に限らず、年齢・男女を一切問わず広く親鸞聖人のみ教えを仰ぐ方々の集まりです。年会費は二千元で二ヶ月に一回の開催。本年度は、『歎異抄』を学ぶをテーマに学習します。『浄土真宗聖典(註釈版)』が必要となりますが、お持ちでない方は当日お申し出ください。原則偶数月、月曜日午後八時開催となります。時間にはご注意ください。詳しい申込みについては別紙をご確認ください。

■お経の練習会 今年も開催!

今年も「勤行聖典」の中にあるお経を中心とした、お経と一緒に読経する練習会開催します。表面の予定のように、五月十四日土曜日(午後八時から二時間)から十月までの毎月一回開催いたします。初めてご参加の方も遠慮なくご参加ください。参加費は無料です。

■初参式のお知らせ!

親鸞聖人の誕生月である五月には毎年婦人会主催により初参式を実施しています。今年も五月十六日(日曜日)午前九時半より光山寺にて開催されます。生後一年くらいまでのお子さんが対象となるが、仏の子として育つため仏教のご縁に初めてあう合同の初参式です。参加希望の方はお子さんのお名前・生年月日等を光山寺までご連絡ください。尚、当日参加できない方は個別の初参式や自宅での初参式も受け付けています。是非お申し出ください。



■成人式をお寺で!

成人を迎えたことを仏さまに奉告するための成人式や還暦式など、人生の節目節目を日頃お世話になった方々と一緒に仏祖に奉告しませんか。お申し込みは随時受け付けております。受式者には記念撮影写真を本堂に掲示いたします。

食わねば死ぬ 緊急の課題だ 食っても死ぬ 永遠の問題だ (直任カレンダーより)

龍谷大学非常勤講師 小池秀章

新型コロナウイルス感染症拡大の中で、「不要不急の外食は控えましょう」という言葉をよく聞くようになり、この言葉を聞いた時、では、不要不急ではないこと、つまり、必要緊急のこととは何だろうかと考えました。生きていくためには食わなければなりません。食わなければ死んでしまいます。ですから、食わねば死ぬことは必要緊急のことだと言えるでしょう(「食わねば死ぬ 緊急の課題だ」)。

しかし、食わねば死なないのでしょか。そんなことはありません。食わねば死ななくても必ず死にます。人は皆、生まれたからには死んでいかなければならないのです。これは、ずっと昔から変わらない真理であり、取り組まなければならぬ永遠の問題なのです(「食っても死ぬ 永遠の問題」)。

しかも、「死」は未来のこととは限らず、今、ここで起こることかもしれません。もう少し正確に言えば、生と死は切り離せないものであり、死の問題は、そのまま、今、この生の問題であって、その解決は、必要緊急のことと言わねばなりません。

親鸞聖人は、死ぬのではない。阿弥陀さまのはたらきによつて、お浄土というさとりの世界(限り無いのちの世界)に生まれさせていただくのです。そして、仏さまに成り、この世に還つて来て、あらゆる人々を救うはたらきをさせて「もう一度です」と教えて下さいました。

死ぬとしか思えない私たちですが、お浄土に生まれさせていただくのだと受け容れた時、そこに新しい世界が開けてくるのです。

合掌

※小池先生は本年度の光山寺仏教婦人会法座(八月二十五日・二十六日)に講師として来講くださる予定です。是非お誘い合わせでお参りください。